

[目標数値]

取 組	現 状 (H21年度実績値)	目 標 (H27年度)
学校給食への地元農産物の供給品目数の割合	22.7%	30%以上
保護者を含めた参加型食育を実施している保育所等の割合	90.7%	100%
むし歯のない府内小学生の割合	38.9%	43.9%以上
むし歯のない府内中学生の割合	51.3%	56.3%以上

(2) 家庭における食育の推進

家庭は、食育を推進する上で最も大切な場であり、食育の原点です。

食の外部化が進んでいる現代にあっても、人が初めて食に触れる場である家庭では、基本的な生活習慣を身に付けたり、望ましい食習慣や知識を習得したり、食文化を伝承したりする上で非常に大きな役割があり、また食を介したコミュニケーションを通じて親子の絆を深めることができます。

しかし、朝食欠食が大きな問題となっているほか、食生活も原因の一つと考えられる生活習慣病の増加や食品ロスの発生などの課題があります。

- ① 「朝ごはんを毎日食べる」運動等の展開
 (具体例)・小学校就学前の子どもを持つ親を対象とした「親のための応援塾」の開講
 ・保育所等での取組の支援
- ② 「食」の大切さや望ましい食習慣等についての啓発
 (具体例)・食のスクラップコンクールの実施 (P. 20参照)
 ・やましろ食育プロジェクト、中丹“食の環”交流事業の実施
- ③ 栄養指導・相談対応の充実
 (具体例)・保健所、保健センター等における栄養相談の実施
- ④ 親子料理教室等、「食」を楽しみながら学ぶ機会の提供
 (具体例)・食生活改善推進員や生活研究グループ等による親子料理教室【再掲】(P. 20参照)
 ・食品関連団体と消費者団体の連携による親子での和菓子作り等体験教室【再掲】

⑤ 初めて父親、母親になる夫婦の子育てを意識した食育における保健・医療機関、NPO等の連携による取組

- (具体例)・プレママプレパパ教室での妊娠期の食生活や健康管理についての講義
- ・保健センター等による離乳食講習会

⑥ きょうと食育ネットワーク会員の連携による食育の推進

- (具体例)・食育講演会の開催【再掲】
- ・スーパーマーケットでの「きょうと食育キャンペーン」の実施による食育に関心の薄い層への啓発【再掲】
- ・農林水産フェスティバルやSKYふれあいフェスティバルでの食生活相談等の実施【再掲】
- ・食品関係事業者等と連携した地元産物を活用したレシピ作成【再掲】

【食について考えよう】

テーマを決めて、新聞や資料などから食に関する記事を集めて、感想などを記載した「食のスクラップ」のコンクールは、子どもが食を考えるきっかけになります。



【森のめぐみを体験しよう】

食べ物の源である森林の現状を見て、ホオ葉めし作りやサルトリイバラ餅作り、クロモジのお箸作りなどを通じて、森林とたべもののつながりを理解することができました。



[数値目標]

取 組	現 状 (H21年度実績値)	目 標 (H27年度)
食育に関心を持っている府民の割合 (※)	84%	90%以上
朝食を毎日食べる府内小学生の割合	87.5%	95%以上
朝食を毎日食べる府内中学生の割合	78.1%	90%以上

※ 「食育に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計です。